

# SOKAの現場

識者が見つめる



——この連載ではまず、学芸員が各地の「現場」で繰り広げる、民衆による運動の実像を、本紙記者によるルポ形式で紹介していくます。それと運動して、開拓准教授が儒徳学芸の「現場」に足を運び、各地の人間に寄り添つネットワークを築く、会の原動力を探究した寄稿を掲載していきます。学会の現場を

# 人間に寄り添う学会の 原動力を探究したい

第2回「SOKA連続セミナー」の全国配信が昨日、始まった。本紙の連載「識者が見つめるSOKAの現場」に寄稿してきた、東京大学大学院の開沼准教授(社会学者)が登場し、取材の中で感じた学会の社会的価値や学会員の原動力について語っている。同連載の開始に当たって行われた、開沼准教授のインタビューを再掲する。(昨年3月5日付)



社会学者  
東京大学大学院

それは、かつてのよき時代に見えた貧困や暴力が、日常的に現れるところへと近づいてしまった。社会は高くなってしまったからだ。路上で中学生のボランティアが、ムレースの人々を手掛けることが、学校での体操、街中の暴力沙汰を引き起すことも減つてしまふといえます。

しかし、それらの問題ではなく、またかといっていえば、貧困ではないが、貧困でいる女性の貧困や子どもの貧困、暴力

探究するに当たり、開沼准教授が大事にしてこられた社会への視点を教えてください。

— 東北をはじめ各地で学会  
交流を重ねてこられた中、  
印象に残っていることは何  
ですか。

力でいえばD、家庭内暴力  
自衛本能についてよく、見えて  
らい形で問題は深刻化していく  
といえるわけだ。  
社会全体を見れば、かつては  
比べて生活レベルは豊かにな  
り、今では多様性を重視する  
う、社会規範の問題を考えよ  
う、自分の周囲の幸福にも目を  
向けるようになってきたこと  
は、これは大きな進展だと思  
います。  
しかしその裏で、かつては  
かりやすく存在していた問題  
なくなつたのではなく、社会大  
きな問題になつたのです。たと  
えば、「あいつはねらひつかないよう

かじゆま。ひろし。1934年、福島県立  
市生まれ。東京大学大学院情報学環・半導体  
研究室准教授。専門は社会学。東京大学文学部  
講師。同大学法科大学院博士課程単位修了後  
定期試験。福島県立社会研究所員、立命館大学准教授  
研究などを歴任。主な著書に「アーティシード論  
原原子力とはなぜ生まれたのか」(毎日出版文化  
化)、「譲りされたる社会」(はじめての福島  
人間)等。

被災地での献身

——創価学会は、一つの見方からすれば、社会的に弱い立場にある人たちを「見て見ぬふり」することなく、一人一人に光を当て、励まし続けてきた団体だといえます。

館（※東北文化会館）を訪れたこともあらりますが、震災を受けた館を開放して被災者を受け入れ、重要な機能を担つたことはもちろん、その後も一貫して最も見えていたような現場の中でも、最後の一人が立ち止まるまでとの思いで、心の復興のために寄り添い、励まし続けていたのだと思じます。私のような専門から見て、創価学会は大きな存在感を発揮しているのだから、きっと内部にはそれ以上に強い、大きな想像力や動き力が働いている。しかし、その論理は、外からはなかなかつかみにくい。日本中、身近なところにも学会学校は多くて、そこによく思いますが、実際どうだった思いで、どんな活動をしているのか、その内実はうかがい知れないというのが正直なところです。

私は、そうした組織が成立し、仕組みに興味がありますし、この企画が、「外部から見た創価学会の内在的論理」を紹介していく個々になればと思いま

されたった場所が、まだ必要と  
かつては同窓会や業界団体、  
あるいは労働組合などの強い網  
がありましたが、現代は、社会全  
体でつながりが希薄化し、若い  
世代を中心に何とか所属する  
に違和感を抱く人も多い。有  
事の際のセーフティネットと  
ならうる中間団体が崩れてい  
る時代です。

そうした中で創価学会は、変  
わることなく人々をつなぐ機能  
を持続させている。その機能  
を稼働させてる原動力は、何なの  
かを知りたいと思っています。

例えは、東日本大震災の被災地でも、創価学会の皆さんによって、創価学会が存在感をもつていている場面を多く見てきました。例えば、東日本大震災の被災地でも、創価学会の皆さんによって、励まし合いや交流会の場を構み重ねてこられました。仙台市の会

ご感想をお寄せください [kansou@seikyo-np.jp](mailto:kansou@seikyo-np.jp) ファックス 03-5360-9613

~~歴史にないものは自分でつくる。  
高砂の100年クオリティ。~~

1923年創業から空調設備で培ってきた技術力。  
その誇りを、パイオニア精神を、次の100年へ。

歴史を築く。未来を拓く。高砂熱学の空調設備

環境クリエイター TakasaGo!

高砂熱学